



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

## よく考える人になる ～「アドルフ・アイヒマン」の教訓～

校長 永浜 裕之

闇バイトに関する報道などを見聞きすると、何故、安直に行動する人がいるのかと感じます。是非、生徒の皆さんには、「よく考える」という習慣を身に付けてほしいと考えます。その必要性を理解してもらうために、ある実話を紹介します。

皆さんは、ナチスドイツによるユダヤ人大虐殺をご存知ですね。ユダヤ人大虐殺計画により、600万人ものユダヤ人が虐殺されました。これは、第2次世界大戦の日本の死者、軍人・軍属230万人、民間人を含めた日本人の死者310万人の、約2倍もの人数です。

ドイツ人である「アドルフ・アイヒマン」は、ユダヤ人大虐殺を行うための、効率的なシステムの構築並びに運営に、主導的な役割を果たした人物です。1960年、彼はアルゼンチンで逃亡生活を送っていたところを、非合法的にイスラエルの秘密警察＝モサドによって逮捕され、エルサレムで裁判を受け、処刑されます。

この時連行されたアイヒマンの風貌を見て、関係者は大きなショックを受けます。何故でしょうか？ それは、彼があまりにも「普通の人」だったからです。

アイヒマンを連行したモサドのスパイは、アルゼンチンに向かう前、アイヒマンのプロファイルを確認します。そこには、「ナチス親衛隊の中佐で、ユダヤ人大虐殺計画を指揮したトップ」と書かれていました。モサドのメンバーは皆、「冷徹で屈強なゲルマンの戦士」を想像していました。しかし、実際の彼は、気の弱そうな、ごく普通の人物だったのです。

エルサレムでの裁判では、この「気の弱そうな人物」の犯した罪が、次々に明らかになっていきます。

この裁判を傍聴していた哲学者の「ハンナ・アーレント」は、裁判の経過を本にまとめています。本の題名は「エルサレムのアイヒマン」で、とても分かりやすいのですが、問題はその副題です。副題は、本の内容を分かりやすくするためにつけますが、作者のアーレントは、副題に、「悪の陳腐さについての報告」と付けています。

本の題名「エルサレムのアイヒマン」、副題「悪の陳腐さについての報告」。奇妙な副題だと思いませんか？

「悪」という言葉に対し、「ありふれてつまらない」という意味の「陳腐」とは、相容れない感じを受けます。

作者がここで意図しているのは、我々が悪について持っている「普通ではない、特別なもの」という認識に対する揺さぶりです。

哲学者であるアーレントは、逮捕されたアイヒマンが、ユダヤ民族に対する憎悪という動機で、ユダヤ人大虐殺を指揮したわけではないと分析しています。大虐殺を指揮したアイヒマンは、ただ純粋に、ナチスで出世するために、与えられた任務を一生懸命にこなそうとして、結果として、恐るべき罪を犯すに至ったのだと、結論づけています。

考察の結果は、次のようにまとめられました。「悪とは、システムを無批判に受け入れることである」

アーレントは、「陳腐」という言葉を用いて、「システムを無批判に受け入れるという悪」は、我々の誰もが犯すことになってもおかしくないのだ、という警鐘を鳴らしています。

つまり、「悪」というのは、それを意図する主体によって、能動的になされるものだと考えられていますが、アーレントは、「意図することなく、受動的になされることにこそ、「悪」の本質があるのかもしれない」と指摘しているわけです。

私たちは与えられた様々なシステムに則って日常生活を営んでおり、その中で仕事をしたり、遊んだり、思考したりしています。その中で、果たしてどれくらいの人数的人が、「システムの持つ危険性について批判的な態度を持っているのか」、または、「少し距離を置いてシステムそのものを眺めるといことをしているのか」と考えると、はなはだ心もたなくなります。多くの人は、現行のシステムがもたらす悪弊に思いを至らすよりも、システムの「ルール」を見抜いて、その中で「うまくやる」ことを考えてしまいます。

過去の歴史を振り返れば、時代、時代に支配的だったシステムが、より良いシステムにリプレースされることで世界は進化してきたわけです。そのように考えると、世の中には、次の二つの生き方があると考えます。

一つは、現行のシステムを所与のものとして、その中でいかに「うまくやるか」について、思考も行動も集中させるという生き方です。もう一つは、現行のシステムを当たり前とせず、システム自体を良きものに変えて行くことに、思考も行動も集中させるという生き方です。多くの人は、はじめに述べた、現行のシステムの中でいかに「うまくやるか」という生き方を選んでるように思えます。

書店のビジネス書のコーナーを眺めてみれば、ベストセラーと呼ばれる書籍の大部分は、現行のシステムの中でいかに「うまくやるか」を解説しています。ベストセラーとなった書籍の多くは、「現行のシステムの中でうまく立ち回り、大金を稼いだ人」によって書かれているため、これを読んだ人が、同様の思考様式や行動様式を行うことで、システムそのものが自己増殖/自己強化を果たしていきいます。はたして、これはよいことなのでしょうか。

哲学者、「ハンナ・アーレント」の提唱した「悪の陳腐さ」は、20世紀の政治哲学を語るうえで大変重要なものだと考えます。人類史上、類を見ない悪事は、それに見合うだけの「悪の怪物」が成したわけではなく、思考を停止し、ただシステムに乗っかって、これをぐるぐるとハムスターのように回すことだけに執心した、小役人によって引き起こされました。この論考は、当時、衝撃を持って受け止められました。凡庸な人間こそが、極め付きの悪人となりうる。「自分で考える」ことを放棄してしまった人は、誰でもアイヒマンのようになる可能性があるということです。だからこそ、人はしっかりと考え、思考停止してはいけません。

是非、「システムを批判的に思考する習慣」、「よく考えるという習慣」を身に付けてください。

(令和8年4月6日 定時制課程始業集会校長あいさつ抜粋)

# 都立新宿山吹高等学校 令和8年度実施事業

※(定)定時制、(通)通信制

文部科学省 **DX加速化推進事業 (DX/ハイスクール)** (定)(通)

教育課程実践検証協力校事業 (情報科) (定)

## 教育庁

### 次世代の学びの基盤プロジェクト

デジタル教科書 (定)(通)

新分野のデジタル教材 (定)

「新たな教育のスタイル」通信制課程 (+α講座) (通)

LMS (学習管理システム) (通)  
(まなぶき、スタディプラス)

オンライン等の学びの評価研究校 (定)  
(オンライン授業による単位認定)

校内別室指導推進事業 (定)

TIPS Type 4 (定)  
(専門高校の新たな学びによる授業改善サポート事業)

進学指導等の充実事業推進校 (定)(通)

ユースヘルスケア事業 (定)

文部科学省からは2つの事業、教育庁からは9つの事業を受けています。本校が多くの事業を引き受けているのは、定時制・通信制を併置する特性を生かし、予測不能なこれからの社会における多様な学習ニーズへの対応や、先導的取組の実証校としての役割を期待されているためだと考えています。

東京都教育委員会は、世界で生き抜く「自立した学習者」を育てるため、「①DX」「②教員と組織」「③制度」の3つの改革を行い「新たな教育のスタイル」の確立に向け「次世代の学びの基盤プロジェクト」を実施しています。

本校では、これらのプロジェクトの成果により、一人一人の生徒の自己実現にアプローチするだけでなく、それらに関する実践的知見を蓄積し、東京都全体へと発信していく責務を果たしていくことで、教育施策を推進する拠点校としての役割を果たしていこうと考えております。

私は、この4月に田無高等学校全日制課程から転任してまいりました。前任校では、副校長としては比較的多くの生徒と話をしてきたように思います。生徒会役員、部活動に取り組む生徒、進路面接を行った生徒、廊下ですれ違うたびに挨拶をしてくれる生徒など、さまざまな場面で生徒と関わってきました。学校の中心には生徒がいます。当たり前のことではありますが、私はこのことをとても大切にしています。

本校通信制課程では、東京都教育委員会の施策である「新しい教育のスタイル」に基づき、数多くの先進的な取組が行われています。デジタル教科書の導入、LMS(Learning Management System)による学びの可視化、「+α講座」における単位認定などがその一例です。本校は都立高校の中でも注目されている学校の一つであり、異動が決まった際には、大きな期待を抱くと同時に、身の引き締まる思いを感じました。

これらの取組は、単に新しい手法を導入することが目的ではなく、急速に変化する社会を見据えた学びの在り方を模索するものです。社会では、生成AIの活用が急速に進み、今後どのように変化していくのか見通しにくい時代となっています。また、社会情勢も決して安定しているとは言えません。こうした状況の中で、これからの社会を生きていくために、どのような力が必要なのか、私の専門である美術の視点から考えることもあります。

ドイツの美術家ヨーゼフ・ボイス(1921年~1986年)は、「社会彫刻」という概念を提唱し、「すべての人間は芸術家である」と述べました。彼は、芸術の定義を拡張し、教育、政治、経済、環境活動、対話など、社会を構成するあらゆる活動を含むものとして捉えました。私は、この考え方を「私たちは社会という一つの作品の制作に集合的に関わる存在であり、自らの感性と創造性を発揮しながら、未来に向けて主体的に関与する姿勢が求められている」という意味として受け止めています。

私は、生徒の皆さんに、共に社会をつくる一人の「芸術家」として成長してほしいと願っています。その土台となる、自らの人生を主体的に築いていく力を、この新宿山吹高等学校で身に付けてもらいたいと考えています。自分のペースで、自分自身の人生を形づくっていく。そのための環境と手段が、本校には用意されています。

これからも私は「生徒のために行う」という姿勢を忘れず、通信制教職員とともに力を合わせて、本校の取組を着実に推進していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 【定時制課程 学校行事予定】

- 5月1日(金) 生徒総会、「人間と社会」演習体験活動説明会
- 8日(金) 給食予約締切日(5/18~29予約分)
- 12日(火) 自己探索学習
- 19日(火) 保護者オープンデイ
- 22日(金) 進路についての保護者説明会  
給食予約締切日(6/1~12予約分)
- 29日(金) 中間考査時間割発表

## 【通信制課程 学校行事予定】

- 5月2日(土) スクーリング1
- 9日(土) スクーリング2
- 16日(土) 特別活動(定期健康診断、校内レクリエーション)
- 22日(金) 特別活動(【校外】防災教育体験)
- 23日(土) スクーリング3、特別活動(総合型選抜について詳しく知ろう!)
- 30日(土) スクーリング4、特別活動(志望理由書ガイダンス)